

自覚、当科外来を受診。受診時の診察では橈骨動脈の拍動を瘤の中極、末梢で触れ、左手指の SpO₂ は第 2-5 指で 99%、第 1 指は 89-92% で低下していたが拍動は検出された。入院後、アルプロスタジル、ヘパリンの投与などで改善せず、翌日に左シャント瘤切除/動脈形成術を行った。術後、末梢の血流改善を認め、左第 1 指の疼痛消失、血色改善を認めた。文献的考察を加えこれを報告する。

臨床的研究

9. 当院における P S A 監視療法の検討

大山 裕亮, 奥木 宏延, 岡崎 浩
中村 敏之 (館林厚生病院 泌尿器科)

対象は 2003~2013 年に当院で PSA 監視療法を行った 135 例。治療開始時に根治療法を行う AS 群 59 例、内分泌療法を行う WW 群 76 例。当院での AS の適応は、基本的に生検病理が GS 7 であれば 6 以下、PSA 10 ng/ml 以下、陽性本数 1/4 以下、占拠率 50% 以下としており、1 年後の再生検を約束している。GS 6 \geq : 7: 8 \leq は AS 群 48 例: 8 例: 3 例・WW 群 35 例: 25 例: 16 例、平均 PSA 値は AS 群 6.003 ng/ml・WW 群 11.741 ng/ml であった。AS 群で再生検施行は 33 例 (治療介入: 20 例)、不施行は 26 例 (治療介入: 16 例) であり、計 36 例 (61.0%) で治療介入したが、治療開始理由は生検所見悪化が 19 例 (32.2%) で最多であった。WW 群は 11 例で治療介入し、理由は PSA 上昇 7 例 (63.6%) が最多であった。WW 群のみ臨床的再発を 2 例に認めたが、癌死はなく、PSA 監視療法は治療開始を遅らせる有用な治療と考えられた。

10. 黒沢病院人間ドック前立腺がん検診における MRI 施行例の検討と考察

林 拓磨, 曲 友弘, 狩野 臨
小倉 治之, 黒澤 功
(社団美心会黒沢病院 泌尿器科)
熊坂 文成, 加瀬 嘉明, 山中 英壽
(社団美心会黒沢病院 予防医学研究所)
楫 靖 (獨協医科大学 放射線科)

【目的】 前回前立腺癌検診における MRI の有用性について報告した。今回 PSA 別に生検陽性率について考察した。【対象】 2009-2013 年までに当院人間ドックにて前立腺癌検診を受検した延べ 47,811 名のうち MRI 施行後に生検を行った 49 名。【結果】 MRI 異常例での陽性率は PSA 0-4 で 100%, 4-10 で 79%, 10-20 で 80%, 20 ng/ml 以上で 100% であった。MRI 正常例であったが生検陽性で

ある例を 1 例認めた。【結論】 生検前 MRI 導入により陽性率は上昇し MRI は有効である可能性が示唆された。今後さらに慎重な検討が必要である。

〈教育講演〉

座長: 小林 幹男 (伊勢崎市民病院)

「泌尿器腹腔鏡技術認定審査に合格するために一腎摘除術」

経腹腔アプローチ: 牧野 武朗 (伊勢崎市民病院)
後腹膜アプローチ: 村松 和道 (群馬県立がんセンター)
後腹膜アプローチ: 竹澤 豊 (伊勢崎市民病院)

【経腹腔アプローチ】 牧野武朗: ロボット支援手術の普及につれて、腹腔鏡技術認定医になるために経験できる症例が年々少なくなっていくことが予想されている。その中でより効果的に、少ない症例で必要な技術の習得、留意点などを伝授できるよう当院では術式の標準化、術者の固定をおこなって段階的なトレーニングを施行している。2 人の認定医による術中の指導、術直後にビデオ供覧、ドライボックスを中心としたトレーニングなどを行っている。当日は実際の当院での取り組みや認定医取得までに感じていた内容と注意点および左腎腫瘍における腹腔鏡下腎摘除術の実際の手技に関して提出ビデオを元に報告する。

【後腹膜アプローチ】 村松和道: 後腹膜アプローチは腹腔鏡技術認定審査での標準的アプローチである。今回は自分が提出したビデオを供覧し注意した点、審査員から指摘された点について発表する。

【後腹膜アプローチ】 竹澤 豊: 2015 年の泌尿器腹腔鏡技術認定審査合格者が、提出ビデオを元に手技のポイントを解説する。技術認定更新者が、腹腔鏡手術の基本的な手技を解説する。

〈特別講演〉

座長: 鈴木 和浩 (群馬大院・医・泌尿器科学)

「Immunecheckpoint 阻害薬によるがん薬物療法新展開 一腎細胞癌、尿路上皮癌を中心に」

富田 善彦 (新潟大学大学院歯学総合研究科
腎泌尿器病態学・分子腫瘍学分野教授)